

CONTENTS

03	エコジーンインタビュー 吉本多香美 「大地と、つながっていたい。」
06	特集 サンゴ礁のこと。
16	海外エコ事情
18	特集2 求む、エコシフトを担う人材
22	エコジャーナル
24	エコ百科 「北海道洞爺湖サミット」
26	エコジーンレポート 「広がる、カーボンオフセットの輪。」
32	エコジーン・アイ
33	エコ生活のもと
34	エッセイ 大江戸エコロ帖 第八回 「土に還る(3) 灰の行方」 文/石川英輔
35	エコモノ

エコジーン vol.8
2008年9月号

デザイン
Tattaka、泉沢備花 (Bit Rabbit)

cover撮影
横井謙典
サンゴ礁は、いま海の汚染や海水温の上昇などが原因で、年々減少し、危機に直面しています。写真は、沖縄県・渡嘉敷島のエダサンゴ。

吉本多香美

大地と、つながっていたい。



写真/トビタテルミ

エコジーン・インタビュー
[ecojin_interview]

少女時代に家族とアフリカを旅して以来、自然と「つながる」ことの大切さを実感しているという女優の吉本多香美さん。いま吉本さんは、世界各地を訪れた経験から、温暖化や自然破壊の危機を感じ取っています。

エコジーンとは、「エコロジー+人」、「エコロジー+マガジン」のこと。環境のことを考える人が一人でも多くなることを目指す、環境省発信のエコ・マガジンです。
※本誌の掲載文のうち、執筆者の意見にあたる部分については、環境省の見解と異なることがあります。



吉本多香美（よしもと たかみ）
1971年生まれ。女優として、テレビ・映画・舞台などで活躍する一方、自然と人間の共存や、動物の生態をテーマにしたドキュメンタリーのリポーターも務める。マウンテンバイク、カヌー、ダイビング、アフリカンダンスなど多彩な趣味をもち、メディカル・ハーブ協会認定のメディカル・ハーブ・セラピストの資格も持つ。
<http://www.yoshimototakami.com>

人間は、自然によって「生かされている」んです。

「私の原点は、アフリカです」——
吉本さんは、そうきっぱり言い切る。

中学3年の夏、1カ月半かけて初めて家族とアフリカを旅した。父親がジープを駆り、キャンプ用品を積み込んで、自炊しながらケニヤを縦断したのだ。俳優である父、黒部進さんは、31歳の時に旅したアフリカでの感動を、どうしても家族にも伝えたいと思っていたのだという。
「サバンナを何万頭ものヌーの群れが歩いていて、あつちにはすごい大きな太陽があつて——もう、何かは!? って感じでした（笑）。太古から変わらない地球の姿がそこにはあつて、私たちはこういう地球から生まれたんだって実感しました。アフリカでの強烈な体験が、いまだに私の人格のコアになつてますね」

アフリカの地で、自然の中に身を浸す快感を知った吉本さんは、さまざまなアウトドア・スポーツにのめり込んでいく。マウンテンバイク、スキューバダイビング、カヤック……。
「マウンテンバイクに乗る本当の目的は、スポーツとしてというより、全身で自然や、季節の移り変わりを体感したいから。私にとって自転車は、大地巡礼をする足みたいな

もの。やっぱり人間は自然の中から生まれたんだから、自然の中に戻るのがいちばん、気持ちいい」

そうやって自然とのつながりを保っていないと、都市の人工的な環境の中で「バランス」を崩してしまうと吉本さんは言う。

「いま、日本の会社の8割近くに心の病を抱えて休職している人がいるというデータを見ましたけど、そんなところにも原因の一端があるのかも。人間は、大地とつながっているへその緒が切れちゃうと、体も心も病んでしまうんですよ」

しかし、自然とふれ合う中で、吉本さんは衝撃的な光景も眼にしてみた。たとえば、地球温暖化による海水温の上昇が原因ともいわれる、サングの白化現象。

「この間も、鹿児島県のかげろ^{かけろ}麻島でダイビングしてきたんですけど、サングが白化して見るも無惨な姿になつていて……。サングが死ぬと、そこに住んでいた魚もいなくなつてしまつて、ホントに、海の墓場みたい。温暖化というと、『遠いところの話』としていまいちリアル感が無い人も多いけど、日本にもすごく影響が出ているんです」

吉本さんは、環境問題に関する海外リポーターの仕事も多いが、多くの矛盾にぶつかつてきた。

ボルネオで、孤児になつてしまつたオランウータンを、リハビリして野生にかえすプログラムを取材したときのこと。孤児が増えてくる理由は、オランウータンがヤシの芽を食べべてしまうため、プランテーションのオーナーが駆除目的で撃ち殺していたからだつた。法律で駆除は厳しく禁じられているが、皆、生活がかつているため、駆除した人を告発する人はいない。

「その時知つたのが、プランテーションのヤシから採れるパーム油が、日本をはじめとする先進国に輸出され、食品や洗剤など、中には『環境にやさしい』という謳い文句で売られている製品にも使われていたというところ。現地を訪れなかったら、決して知り得なかつた事実でした。環境をめぐる『本当のこと』は、自分で探して、知ろうとしないと分からないんです」

いま、この地球で起きている「本当のこと」を知りたい——少女時代にアフリカから始まつた吉本さんの「旅」は、いまも続いている。



いつも持ち歩いているというアロマオイルと、シアバター（アフリカのシアの実から採れる天然のクリーム）。リラクゼーションやスキンケアも、植物の力で。